

資料第 1105 号

平成 17 年 国 勢 調 査

－ 従業地・通学地集計結果（広島県）－

平成 19 年 7 月

広 島 県

目 次

用語の解説

結果の概要

1	通勤・通学人口	1
2	流出・流入人口	11
3	昼間人口	15

〔用語の解説〕

従業地・通学地集計とは

従業地・通学地集計とは、我が国の人口の通勤・通学による日々の移動状況を把握するため、国勢調査の結果の中から通勤者及び通学者の人口を通勤先・通学先などの別に集計し、統計として取りまとめたものである。

通勤・通学人口

「通勤・通学人口」とは、①自宅外で従業している15歳以上就業者の人口と②学校（予備校などの各種学校・専修学校を含む。）に通っている15歳以上通学者の人口をいう。

流出人口・流入人口

A市における「流出人口（通勤・通学者）」とは、A市に常住しA市以外へ通勤・通学する人口をいい、「流入人口（通勤・通学者）」とは、A市以外に常住しA市に通勤・通学する人口をいう。

昼間人口・夜間人口

「昼間人口（従業地・通学地による人口）」とは、常住地の人口に流入・流出人口（通勤・通学者）を加減した人口であり、次式により算出する。

- ・ A市の昼間人口=A市の常住人口-A市における流出人口+A市における流入人口

これに対し「夜間人口」とは、常住地の人口のことであり、「昼間人口」と対比する意味で用いられる。

昼夜間人口比率

「昼夜間人口比率」は次式により算出され、100を超えているときは昼間人口が常住人口を上回ること（流入超過）を示し、100を下回っているときは昼間人口が常住人口を下回ること（流出超過）を示している。

- ・ A市の昼夜間人口比率=（A市の昼間人口/A市の夜間人口）×100

※注意 この報告書における割合等の数値は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、必ずしも内訳の合計が総数（100%）とは一致しない。

結果の概要

1 通勤・通学人口

(1) 従業地・通学地別就業者・通学者数

～合併の影響により自市町での通勤、通学者の割合が7割を超える～

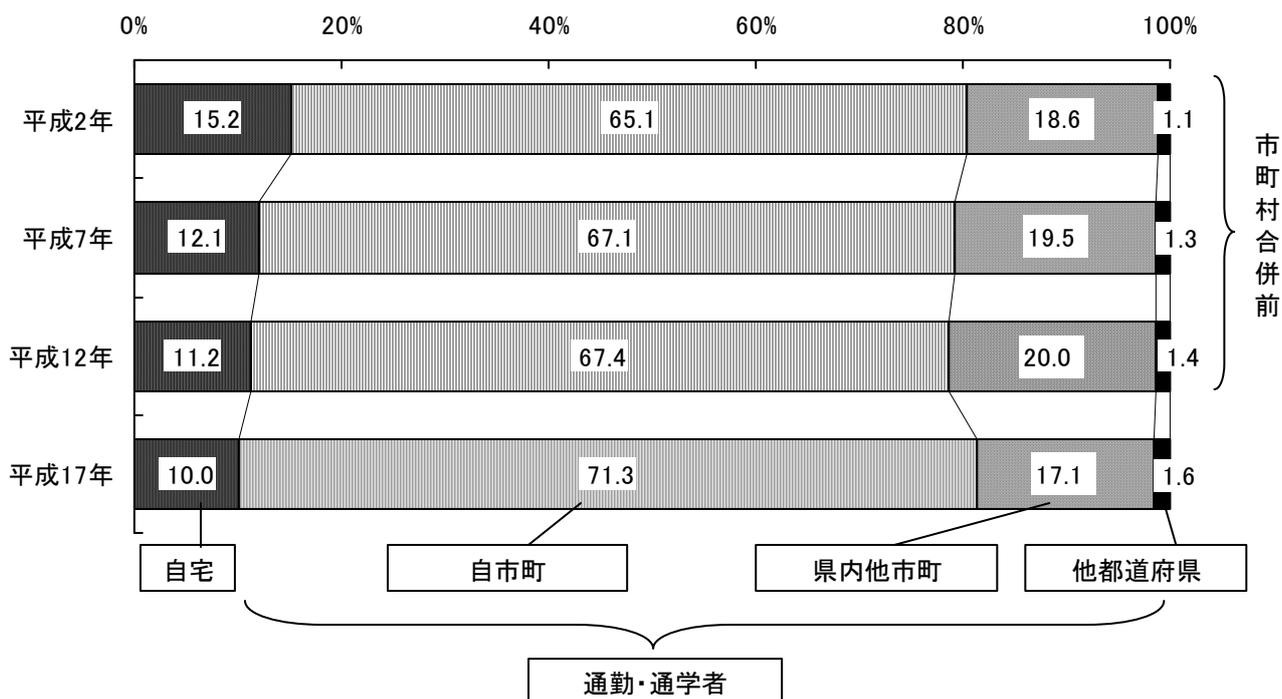
平成17年国勢調査による広島県の15歳以上の就業者・通学者数（以下、特に注釈のない限り15歳以上の就業者・通学者をいう。）は1,552,016人（就業者1,398,474人、通学者153,542人）で、平成12年と比べると51,222人（△3.2%）減少している。

就業者のうち自宅で就業している自宅就業者は155,714人で、それを除いた自宅外で従業している通勤者（1,242,760人）と通学者を合わせた1,396,302人が、日々往復移動をしている通勤・通学人口となっている。

従業地・通学地別にみると、自宅外の自市町（政令指定市内他区を含む。「以下同じ」）で従業・通学している人は1,106,080人（就業者・通学者総数の71.3%）、県内他市町は265,959人（同17.1%）、他都道府県は24,263人（同1.6%）となっている。

平成12年以前の就業者・通学者の従業地・通学地別の割合と比較すると、自宅就業者が縮小、通勤・通学者が拡大を続けているが、通勤・通学者の内訳をみると、自市町が71.3%と7割を越え、一方で県内他市町は17.1%となっている。これは、市町村合併が大きく影響したものと考えられる。（統計表：第1表）

図1 15歳以上就業者・通学者の従業地・通学地別割合の推移



(2) 従業地別通勤者数

～通勤者の約8割は自市町通勤者～

通勤者 1,242,760 人の従業地をみると、自市町が 987,639 人（通勤者の 79.5%）、県内他市町が 235,339 人（同 18.9%）、他都道府県が 19,782 人（同 1.6%）となっている。

平成 12 年と比べると、自市町での通勤者の割合が大きくなっている。（統計表：第 1 表）

(3) 通学地別通学者数

～自市町通学者が 77.1%～

通学者 153,542 人の通学地をみると、自市町が 118,441 人（通学者全体の 77.1%）、県内他市町が 30,620 人（同 19.9%）、他都道府県が 4,481 人（同 2.9%）となっている。

平成 12 年と比べると、通学者全体では減少しているが、内訳をみると、他都道府県通学者は 124 人の増加となっている。（統計表：第 1 表）

表 1 従業地・通学地別、15 歳以上通勤・通学者数及び割合

（単位：人、%）

従業地・通学地	実 数			割 合		
	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)
通勤者	1,242,760	1,248,500	1,270,370	100.0	100.0	100.0
自市町	987,639	950,077	977,773	79.5	76.1	77.0
県内他市町	235,339	280,418	276,374	18.9	22.5	21.8
他都道府県	19,782	18,005	16,223	1.6	1.4	1.3
通学者	153,542	174,912	201,901	100.0	100.0	100.0
自市町	118,441	130,686	145,732	77.1	74.7	72.2
県内他市町	30,620	39,869	50,028	19.9	22.8	24.8
他都道府県	4,481	4,357	6,141	2.9	2.5	3.0

(4) 従業地, 男女別就業者数

～女性の通勤者が増加～

就業者の従業地を男女別にみると, 男性は自宅就業者が 82,430 人, 通勤者が 720,457 人で, 平成 12 年と比べそれぞれ 8,730 人 ($\Delta 9.6\%$), 18,454 人 ($\Delta 2.5\%$) 減少している。

女性は自宅就業者が 73,284 人, 通勤者が 522,303 人で, 平成 12 年と比べ自宅就業者は 15,382 人 ($\Delta 17.3\%$) 減少しているが, 通勤者は 12,714 人 (2.5%) 増加している。

従業地別割合をみると, 男性は, 自宅就業者が 10.3%, 自宅外の自市町通勤者が 67.9%, 県内他市町通勤者が 19.9%, 他都道府県通勤者が 1.9%, 女性は自宅就業者が 12.3%, 自宅外の自市町通勤者が 74.3%, 県内他市町通勤者 12.7%, 他都道府県通勤者が 0.7% となっており, 女性は男性と比べ, 自宅及び自市町の割合が大きくなっている。(統計表: 第 1 表)

表 2 従業地, 男女別 15 歳以上就業者数の推移

(単位: 人, %)

従業地	実 数			割 合		
	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)
男	802,887	830,071	867,946	100.0	100.0	100.0
自宅	82,430	91,160	99,712	10.3	11.0	11.5
通勤者	720,457	738,911	768,234	89.7	89.0	88.5
自市町	545,305	532,477	560,999	67.9	64.1	64.6
県内他市町	159,799	192,218	194,242	19.9	23.2	22.4
他都道府県	15,353	14,216	12,993	1.9	1.7	1.5
女	595,587	598,255	604,664	100.0	100.0	100.0
自宅	73,284	88,666	102,528	12.3	14.8	17.0
通勤者	522,303	509,589	502,136	87.7	85.2	83.0
自市町	442,334	417,600	416,774	74.3	69.8	68.9
県内他市町	75,540	88,200	82,132	12.7	14.7	13.6
他都道府県	4,429	3,789	3,230	0.7	0.6	0.5

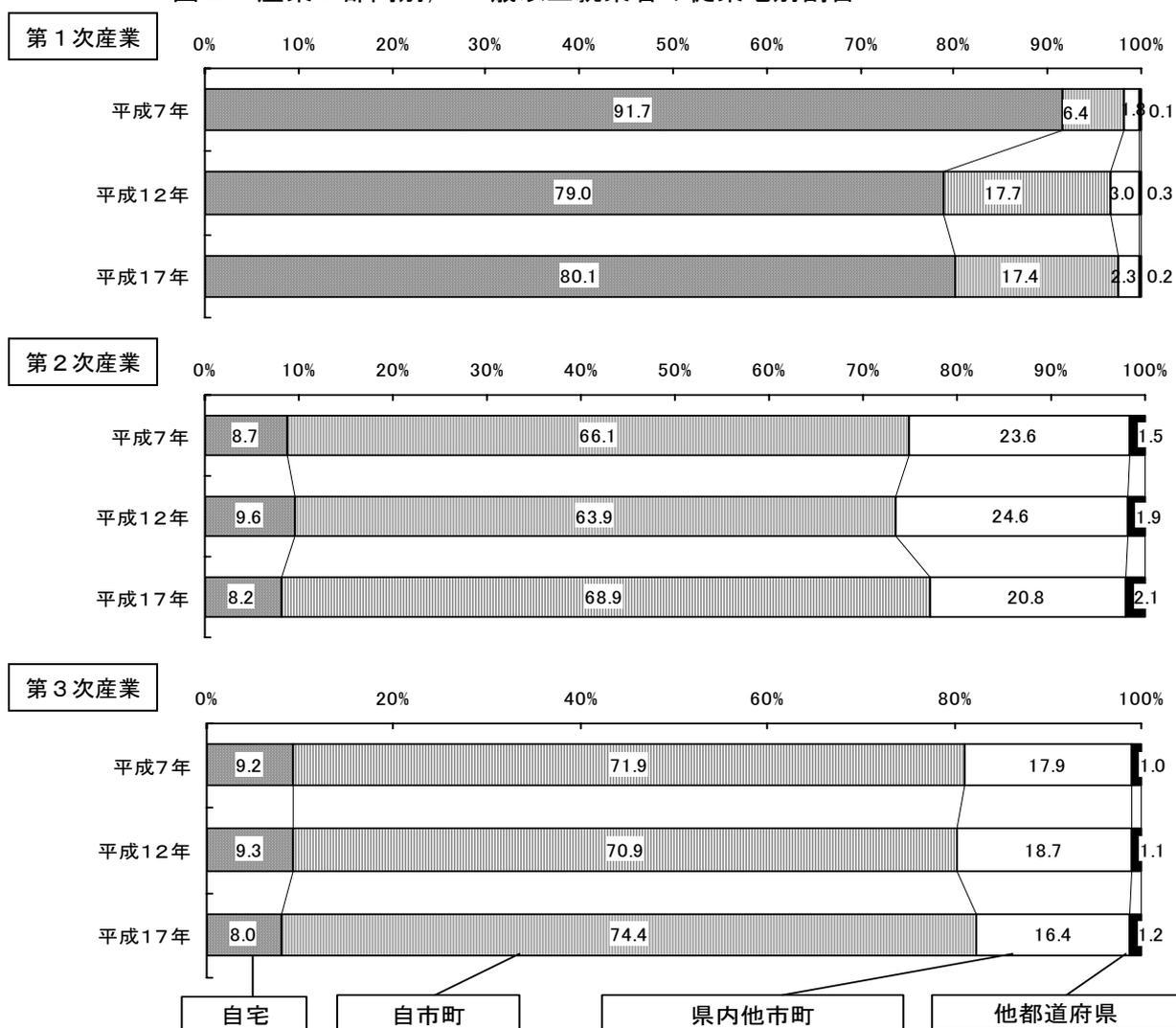
(5) 従業地、産業別就業者

～第1次産業で自宅従業者の割合が拡大～

就業者の従業地別割合を産業3部門別にみると、第1次産業では自宅就業者が80.1%と大きな割合を示したのに対し、第2次産業及び第3次産業では、自宅就業者の割合はそれぞれ8.2%、8.0%と小さく、ほとんどが通勤者となっている。

第2次産業、第3次産業とも自市町及び県内他市町通勤者が大きな割合を占めているが、平成17年には割合が拡大しており、市町村合併が大きく影響したものと考えられる。(統計表：第2表)

図2 産業3部門別、15歳以上就業者の従業地別割合



(6) 市町別通勤・通学人口

① 就業者・通学者の従業地・通学地別割合

～広島市の就業者・通学者の8割以上が自宅外の自市内に通勤・通学～

就業者・通学者の従業地・通学地別割合を市町別にみると、自宅就業者の割合が最も大きいのは神石高原町の37.2%で、次いで瀬戸田町(31.6%)、庄原市(25.4%)となっている。

自宅以外の自市町内に通勤・通学している人の割合が最も大きいのは、広島市の82.5%で、次いで福山市(76.9%)、呉市(73.5%)となっている。

県内の他市町へ通勤・通学している人の割合が最も大きいのは、坂町の63.7%で、次いで府中町(59.6%)、海田町(58.3%)となっている。

他都道府県に通勤・通学している人の割合が最も大きいのは、大竹市の15.0%で、次いで神辺町(7.3%)、福山市(4.1%)となっている。(統計表：第3-1表)

表3 市町別就業者・通学者の従業地・通学地別割合

(単位：%)

市町名	自宅		自市町(自宅外)		県内他市町		他都道府県	
	割合	順位	割合	順位	割合	順位	割合	順位
広島県	10.0	—	71.3	—	17.1	—	1.6	—
広島市	7.3	25	82.5	1	9.3	27	0.9	10
呉市	9.9	17	73.5	3	16.2	21	0.3	24
竹原市	15.2	13	53.9	16	30.3	8	0.6	19
三原市	12.9	15	69.2	4	17.0	19	1.0	9
尾道市	12.1	16	64.3	9	22.2	13	1.4	8
因島市	17.0	11	66.1	8	12.9	23	4.0	4
福山市	9.4	21	76.9	2	9.6	26	4.1	3
府中市	13.8	14	57.6	14	27.8	9	0.8	13
三次市	20.5	10	66.9	7	12.0	24	0.6	17
庄原市	25.4	3	62.7	10	11.1	25	0.8	14
大竹市	8.1	22	50.9	19	26.0	10	15.0	1
東広島市	9.7	20	67.7	5	22.1	14	0.5	20
廿日市市	7.5	23	40.9	22	49.7	6	1.9	7
安芸高田市	22.1	9	55.9	15	21.8	15	0.2	28
江田島市	16.0	12	60.3	11	23.4	11	0.3	25
府中町	5.5	28	34.1	25	59.6	2	0.8	11
海田町	5.7	27	35.5	23	58.3	3	0.6	18
熊野町	9.8	18	32.1	26	57.6	4	0.5	23
坂町	6.6	26	29.2	28	63.7	1	0.5	22
大野町	7.3	24	31.3	27	57.4	5	4.0	5
宮島町	25.2	5	53.4	17	20.8	16	0.6	16
安芸太田町	23.3	8	58.4	13	18.1	17	0.3	27
北広島町	25.3	4	58.9	12	15.0	22	0.7	15
瀬戸田町	31.6	2	48.5	20	17.9	18	2.0	6
大崎上島町	25.0	6	67.0	6	7.4	28	0.5	21
世羅町	23.7	7	53.3	18	22.7	12	0.3	26
神辺町	9.7	19	35.1	24	47.9	7	7.3	2
神石高原町	37.2	1	45.0	21	17.0	20	0.8	12

※ 同率の場合は、小数点第2位を算出して順位をつけた。

② 就業者の従業地別割合

～大竹市の就業者の 15.6%が他都道府県通勤者～

就業者の従業地別割合を市町別にみると、自宅就業者の割合が最も大きいのは神石高原町の 39.5%で、次いで瀬戸田町 (33.5%)、大崎上島町 (27.9%) となっている。

自宅以外の自市町通勤者の割合が最も大きいのは、広島市の 81.6%で、次いで福山市 (76.3%)、呉市 (73.7%) となっている。

県内他市町通勤者の割合が最も大きいのは、坂町の 61.8%で、次いで府中町 (58.8%)、海田町 (58.5%) となっている。

他都道府県通勤者の割合が最も大きいのは、大竹市の 15.6%で、次いで神辺町 (6.9%)、大野町 (4.1%) となっている。(統計表：第3-2表)

表4 市町別就業者の従業地別割合

(単位：%)

市町名	自宅		自市町(自宅外)		県内他市町		他都道府県	
	割合	順位	割合	順位	割合	順位	割合	順位
広島県	11.1	—	70.6	—	16.8	—	1.4	—
広島市	8.1	25	81.6	1	9.5	27	0.8	9
呉市	10.9	18	73.7	3	15.1	21	0.3	23
竹原市	16.6	13	54.7	17	28.3	8	0.4	20
三原市	14.2	15	69.9	4	15.3	20	0.6	13
尾道市	13.4	16	63.7	9	22.0	13	0.9	8
因島市	18.3	11	67.2	5	11.4	23	3.1	5
福山市	10.4	21	76.3	2	9.7	26	3.5	4
府中市	14.9	14	57.9	13	26.6	9	0.5	16
三次市	22.0	10	66.1	6	11.4	24	0.5	18
庄原市	27.6	4	60.3	11	11.4	25	0.7	11
大竹市	8.9	22	53.1	18	22.4	12	15.6	1
東広島市	11.5	17	65.3	7	22.7	10	0.5	17
廿日市市	8.5	23	40.4	22	49.3	6	1.8	7
安芸高田市	23.7	9	56.1	15	20.0	14	0.2	26
江田島市	17.2	12	62.6	10	19.9	15	0.3	24
府中町	6.1	28	34.3	25	58.8	2	0.7	12
海田町	6.2	27	34.7	24	58.5	3	0.5	15
熊野町	10.7	19	31.7	27	57.2	4	0.4	22
坂町	7.3	26	30.5	28	61.8	1	0.4	21
大野町	8.1	24	32.2	26	55.6	5	4.1	3
宮島町	26.7	6	55.8	16	17.3	16	0.2	27
安芸太田町	24.7	8	58.5	12	16.6	18	0.2	25
北広島町	27.3	5	57.5	14	14.4	22	0.8	10
瀬戸田町	33.5	2	47.5	20	17.1	17	1.9	6
大崎上島町	27.9	3	64.8	8	6.9	28	0.4	19
世羅町	25.6	7	51.6	19	22.6	11	0.2	28
神辺町	10.6	20	34.9	23	47.7	7	6.9	2
神石高原町	39.5	1	43.6	21	16.3	19	0.6	14

※ 同率の場合は、小数点第2位を算出して順位をつけた。

③ 通学者の通学地別割合

～因島市の通学者の 16.3%が他都道府県通学者～

通学者の通学地別割合を市町別にみると、自市町通学者の割合が最も大きいのは、広島市の 90.5%で、次いで庄原市 (90.1%)、大崎上島町 (86.8%) となっている。

県内他市町通学者の割合が最も大きいのは、坂町の 81.4%で、次いで宮島町 (80.0%)、大野町 (74.7%) となっている。

他都道府県通学者の割合が最も大きいのは、因島市の 16.3%で、次いで神辺町 (11.5%)、福山市 (9.9%) となっている。(統計表：第 3 - 3 表)

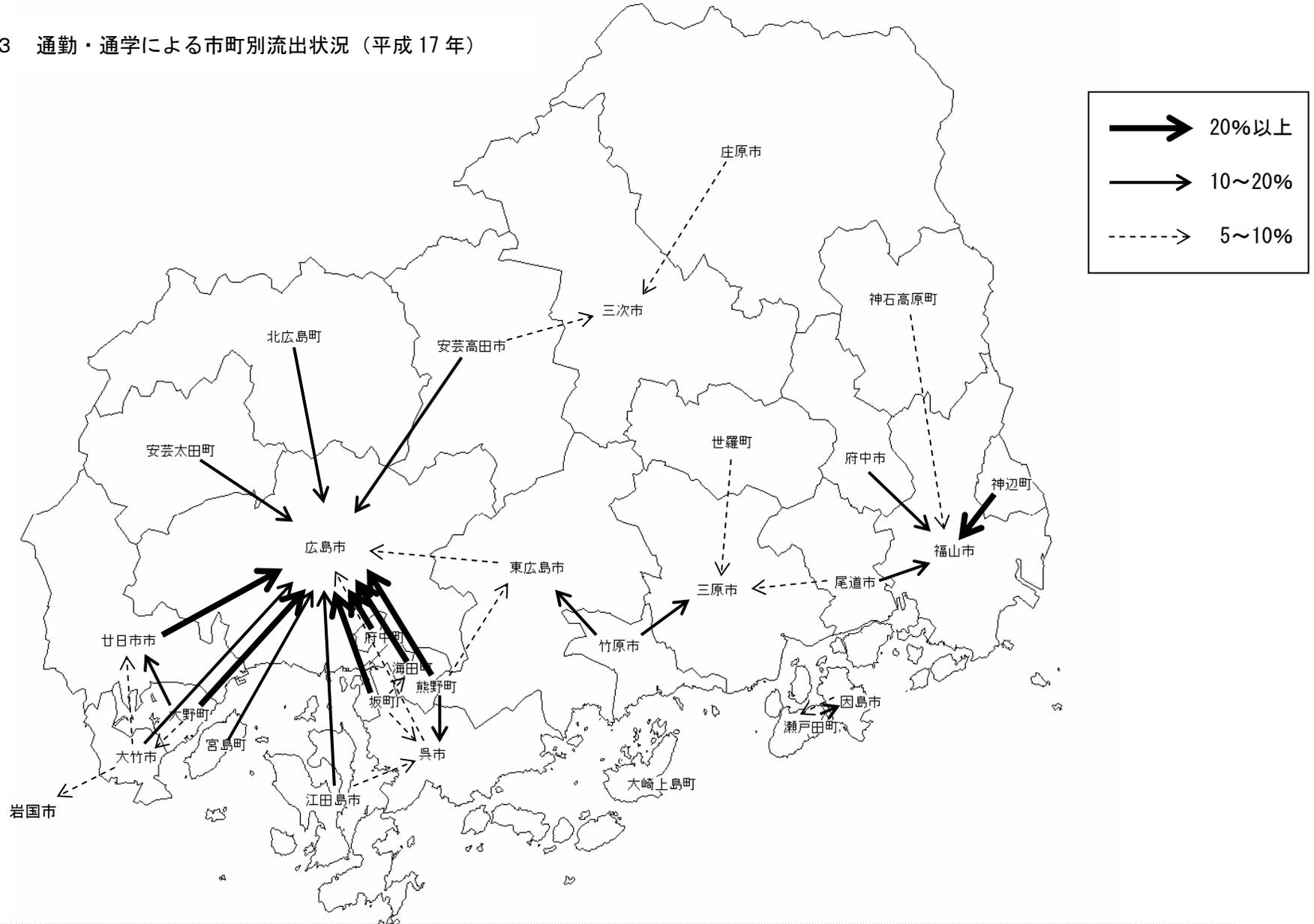
表 5 市町別通学者の通学地別割合

(単位：%)

市町名	自市町		県内他市町		他都道府県	
	割合	順位	割合	順位	割合	順位
広島県	77.1	—	19.9	—	2.9	—
広島市	90.5	1	8.4	27	1.2	21
呉市	72.2	9	27.3	19	0.5	27
竹原市	45.3	18	52.9	10	1.8	14
三原市	62.2	13	33.6	15	4.2	8
尾道市	70.1	10	24.0	21	5.9	6
因島市	50.7	17	32.9	16	16.3	1
福山市	82.2	4	7.9	28	9.9	3
府中市	54.5	15	41.7	14	3.9	9
三次市	77.2	6	20.9	23	1.9	13
庄原市	90.1	2	8.6	26	1.3	20
大竹市	28.8	25	62.2	7	9.0	4
東広島市	79.9	5	19.3	24	0.8	25
廿日市市	44.9	19	52.9	9	2.2	12
安芸高田市	53.9	16	45.8	12	0.3	28
江田島市	29.8	24	69.2	4	1.0	23
府中町	31.7	23	66.6	5	1.7	15
海田町	42.8	20	56.2	8	1.0	24
熊野町	35.6	22	62.8	6	1.6	17
坂町	17.2	27	81.4	1	1.4	18
大野町	22.6	26	74.7	3	2.7	11
宮島町	12.3	28	80.0	2	7.7	5
安芸太田町	56.5	14	42.2	13	1.3	19
北広島町	76.7	7	22.8	22	0.5	26
瀬戸田町	64.8	12	31.9	17	3.3	10
大崎上島町	86.8	3	12.2	25	1.1	22
世羅町	74.1	8	24.2	20	1.7	16
神辺町	38.2	21	50.3	11	11.5	2
神石高原町	67.8	11	27.9	18	4.3	7

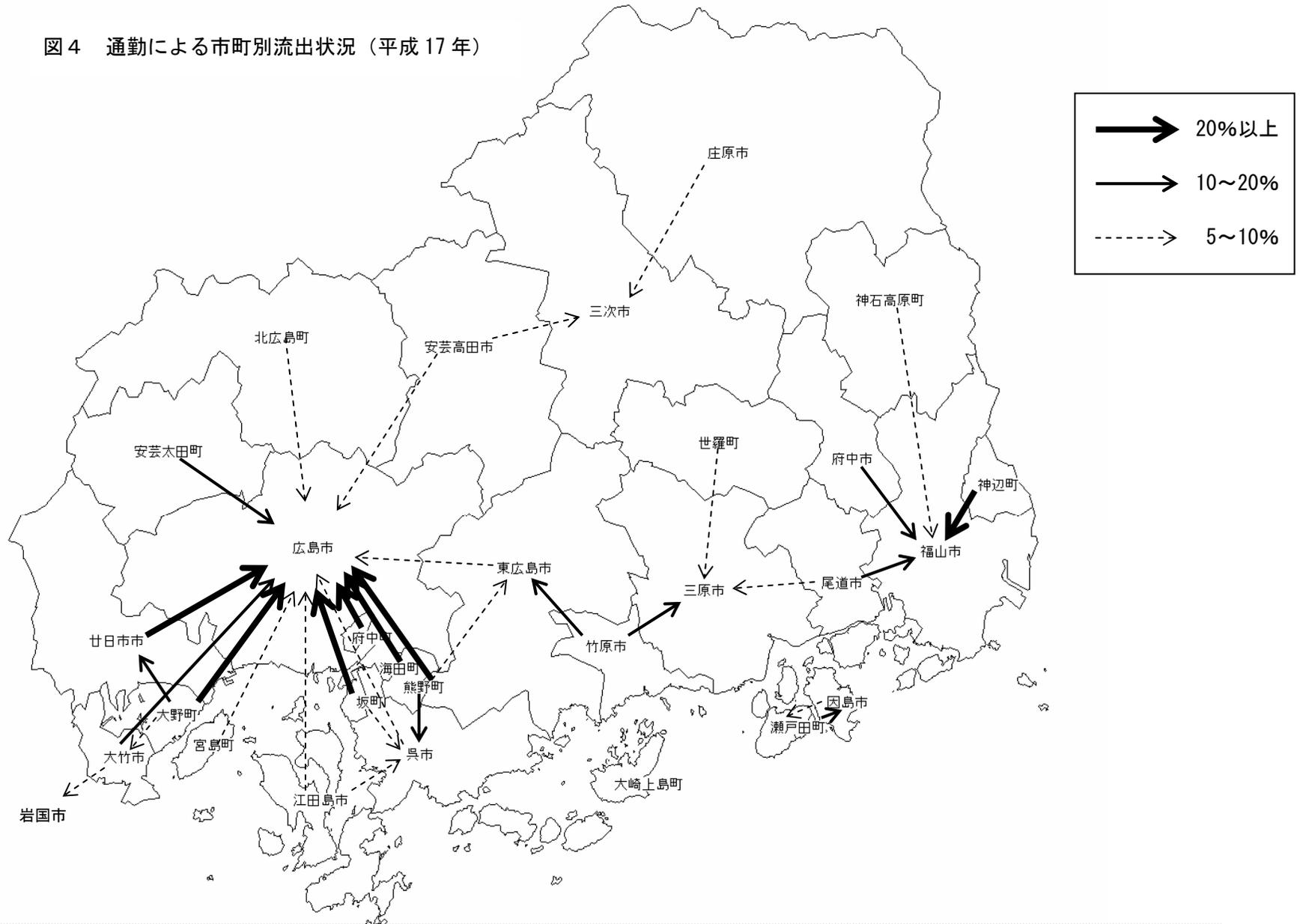
※ 同率の場合は、小数点第 2 位を算出して順位をつけた。

図3 通勤・通学による市町別流出状況（平成17年）



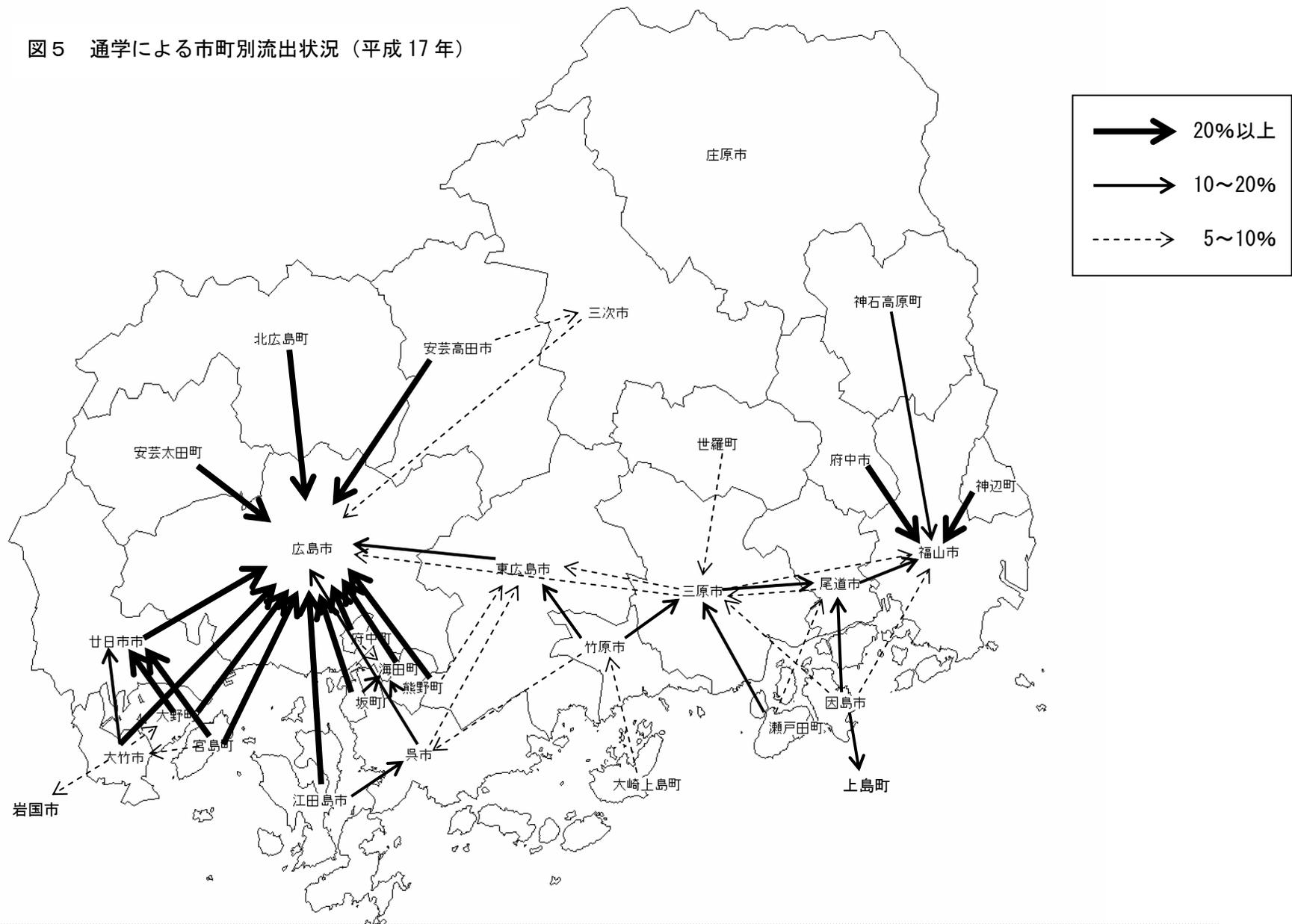
※ ある市町（A市）の就業者・通学者のうち、他の市町（B市）へ通勤・通学する者の比率（B市への通勤・通学者/A市の就業者・通学者×100）により、通勤・通学の状況を矢印であらわした。（ただし、B市への通勤・通学者が5%未満の場合を除く。）

図4 通勤による市町別流出状況（平成17年）



※ ある市町（A市）の就業者のうち、他の市町（B市）へ通勤する者の比率（B市への通勤者／A市の就業者×100）により、通勤の状況を矢印であらわした。（ただし、B市への通勤者が5%未満の場合を除く。）

図5 通学による市町別流出状況（平成17年）



※ ある市町（A市）の通学者のうち、他の市町（B市）へ通学する者の比率（B市への通学者/A市の通学者×100）により、通学の状況を矢印であらわした。（ただし、B市への通学者が5%未満の場合を除く。）

2 流出・流入人口

(1) 通勤・通学者の流出・流入

～9,459人の流入超過，流出口・流入人口とも大幅に増加～

他都道府県を従業地・通学地として広島県から流出している通勤者・通学者は24,263人で，平成12年と比べ1,901人（8.5%）増加している。

一方，広島県を従業地・通学地として他都道府県から流入している通勤者・通学者は33,722人で，平成12年と比べ1,519人（4.7%）増加している。

この結果，通勤・通学者は9,459人の流入超過となっているが，平成12年と比べると382人（△3.9%）縮小している。

本県から隣接県への流出口をみると，岡山県への流出が最も多く11,757人で，流出口の48.5%を占めており，次いで山口県の5,863人（同24.2%），愛媛県の1,025人（同4.2%）となっている。

隣接県から本県への流入人口をみると，岡山県からの流入が最も多く14,725人で，流入人口の43.7%を占めており，次いで山口県の10,588人（同31.4%），愛媛県の1,413人（同4.2%）となっている。（統計表：第4-1表）

表6 本県からの流出口及び本県への流入人口

（単位：人，%）

都道府県	実数			増加数		増加率		割合	
	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年	平成17年 (2005)	
流出口	24,263	22,362	22,364	1,901	△ 2	8.5	△ 0.0	100.0	
内 隣 接 県 訳	鳥取県	181	203	141	△ 22	62	△ 10.8	44.0	0.7
	島根県	778	873	651	△ 95	222	△ 10.9	34.1	3.2
	岡山県	11,757	11,105	11,006	652	99	5.9	0.9	48.5
	山口県	5,863	5,943	6,187	△ 80	△ 244	△ 1.3	△ 3.9	24.2
	香川県	199	177	169	22	8	12.4	4.7	0.8
	愛媛県	1,025	829	775	196	54	23.6	7.0	4.2
	その他	4,460	3,232	3,435	1,228	△ 203	38.0	△ 5.9	18.4
流入人口	33,722	32,203	34,515	1,519	△ 2,312	4.7	△ 6.7	100.0	
内 隣 接 県 訳	鳥取県	154	104	75	50	29	48.1	38.7	0.5
	島根県	1,200	1,351	1,565	△ 151	△ 214	△ 11.2	△ 13.7	3.6
	岡山県	14,725	14,101	14,919	624	△ 818	4.4	△ 5.5	43.7
	山口県	10,588	10,879	11,744	△ 291	△ 865	△ 2.7	△ 7.4	31.4
	香川県	222	120	86	102	34	85.0	39.5	0.7
	愛媛県	1,413	1,432	1,686	△ 19	△ 254	△ 1.3	△ 15.1	4.2
	その他	5,420	4,216	4,440	1,204	△ 224	28.6	△ 5.0	16.1
流入超過数	9,459	9,841	12,151	△ 382	△ 2,310	△ 3.9	△ 19.0	-	

(2) 通勤者の流出・流入

～通勤者は10,671人の流入超過，流入人口が増加に転じる～

他都道府県を従業地として広島県から流出している通勤者は19,782人で，平成12年と比べ1,777人(9.9%)増加している。

一方，広島県を通勤地として他都道府県から流入している通勤者は，30,453人で，平成12年と比べ1,163人(4.0%)増加している。

この結果，通勤者は，10,671人の流入超過となっているが，平成12年と比べると614人(△5.4%)縮小している。

本県から隣接県へ流出している通勤者をみると，岡山県への流出が最も多く9,198人で，他都道府県へ流出している通勤者の46.5%を占めており，次いで，山口県の5,263人(同26.4%)，愛媛県の781人(同3.9%)となっている。

隣接県から本県へ流入している通勤者をみると，岡山県からの流入が最も多く13,601人で，他都道府県から流入している通勤者の44.7%を占めており，次いで山口県の9,238人(同30.3%)，愛媛県の1,315人(同4.3%)となっている。(統計表：第4-2表)

表7 通勤者の本県からの流出及び本県への流入

(単位：人，%)

都道府県	実数			増加数		増加率		割合 (平成17年 (2005))	
	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年		
流出人口	19,782	18,005	16,223	1,777	1,782	9.9	11.0	100.0	
内 隣 接 県 記	鳥取県	169	198	138	△ 29	60	△ 14.6	43.5	0.9
	島根県	735	843	613	△ 108	230	△ 12.8	37.5	3.7
	岡山県	9,198	8,294	6,986	904	1,308	10.9	18.7	46.5
	山口県	5,263	5,299	5,116	△ 36	183	△ 0.7	3.6	26.6
	香川県	178	155	137	23	18	14.8	13.1	0.9
	愛媛県	781	620	496	161	124	26.0	25.0	3.9
	その他	3,458	2,596	2,737	862	△ 141	33.2	△ 5.2	17.5
流入人口	30,453	29,290	30,791	1,163	△ 1,501	4.0	△ 4.9	100.0	
内 隣 接 県 記	鳥取県	138	98	71	40	27	40.8	38.0	0.5
	島根県	1,127	1,263	1,479	△ 136	△ 216	△ 10.8	△ 14.6	3.7
	岡山県	13,601	13,030	13,433	571	△ 403	4.4	△ 3.0	44.7
	山口県	9,238	9,592	10,107	△ 354	△ 515	△ 3.7	△ 5.1	30.3
	香川県	182	103	75	79	28	76.7	37.3	0.6
	愛媛県	1,315	1,363	1,605	△ 48	△ 242	△ 3.5	△ 15.1	4.3
	その他	4,852	3,841	4,021	1,011	△ 180	26.3	△ 4.5	15.9
流入超過数	10,671	11,285	14,568	△ 614	△ 3,283	△ 5.4	△ 22.5	-	

(3) 通学者の流出・流入

～通学者は1,212人の流出超過，流出口・流入人口とも増加に転じる～

他都道府県を通学地として広島県から流出している通学者は4,481人で，平成12年と比べ124人（2.8%）増加している。

一方，広島県を通学地として他都道府県から流入している通学者は，3,269人で，平成12年と比べ356人（12.2%）増加している。

この結果，通学者は，1,212人の流出超過となっているが，平成12年と比べると232人（△16.1%）縮小している。（統計表：第4-3表）

本県から隣接県へ流出している通学者をみると，岡山県への流出が最も多く2,559人で，他都道府県へ流出している通学者の57.1%を占めており，次いで，山口県の600人（同13.4%），愛媛県の244人（同5.4%）となっている。

隣接県から本件へ流入している通学者をみると，山口県からの流入が最も多く1,350人で，他都道府県から流入している通学者の41.3%を占めており，次いで岡山県の1,124人（同34.4%）となっている。

表8 通学者の本県からの流出及び本県への流入

（単位：人，%）

都道府県	実数			増加数		増加率		割合 平成17年 (2005)	
	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年		
流出口	4,481	4,357	6,141	124	△ 1,784	2.8	△ 29.1	100.0	
内 隣 接 県 記	鳥取県	12	5	3	7	2	140.0	66.7	0.3
	島根県	43	30	38	13	△ 8	43.3	△ 21.1	1.0
	岡山県	2,559	2,811	4,020	△ 252	△ 1,209	△ 9.0	△ 30.1	57.1
	山口県	600	644	1,071	△ 44	△ 427	△ 6.8	△ 39.9	13.4
	香川県	21	22	32	△ 1	△ 10	△ 4.5	△ 31.3	0.5
	愛媛県	244	209	279	35	△ 70	16.7	△ 25.1	5.4
	その他	1,002	636	698	366	△ 62	57.5	△ 8.9	22.4
流入人口	3,269	2,913	3,724	356	△ 811	12.2	△ 21.8	100.0	
内 隣 接 県 記	鳥取県	16	6	4	10	2	166.7	—	0.5
	島根県	73	88	86	△ 15	2	△ 17.0	2.3	2.2
	岡山県	1,124	1,071	1,486	53	△ 415	4.9	△ 27.9	34.4
	山口県	1,350	1,287	1,637	63	△ 350	4.9	△ 21.4	41.3
	香川県	40	17	11	23	6	135.3	54.5	1.2
	愛媛県	98	69	81	29	△ 12	42.0	△ 14.8	3.0
	その他	568	375	419	193	△ 44	51.5	△ 10.5	17.4
流入超過数	△ 1,212	△ 1,444	△ 2,417	232	973	△ 16.1	△ 40.3	—	

(4) 市町の流出・流入人口

～広島市の流入超過数が最も多い～

流入・流出人口を市町別にみると、他市町への流出が最も多いのは広島市の 63,970 人で、次いで福山市の 30,509 人、廿日市市の 24,858 人となっている。

一方、他市町からの流入が最も多いのは広島市の 93,043 人で、次いで福山市の 37,658 人、東広島市の 20,993 人となっている。

また、流入超過数が最も多いのは、広島市の 29,073 人で、次いで福山市の 7,149 人、府中町の 3,685 人となっており、流出超過数が最も多いのは、廿日市市の 10,737 人で、次いで熊野町の 5,732 人、呉市の 5,143 人となっている。(統計表：第 5 表)

表 9 市町別流出人口及び流出入超過数

(単位：人)

市町名	流出人口		流入人口		流出入超過数 (△は流出超過)	
	実数	順位	実数	順位	実数	順位
広島市	63,970	1	93,043	1	29,073	1
呉市	21,414	5	16,271	5	△ 5,143	26
竹原市	4,835	15	3,597	17	△ 1,238	20
三原市	9,986	9	11,326	8	1,340	7
尾道市	13,892	7	11,900	7	△ 1,992	22
因島市	2,259	22	2,169	21	△ 90	16
福山市	30,509	2	37,658	2	7,149	2
府中市	6,712	13	8,893	10	2,181	4
三次市	4,149	16	5,532	14	1,383	6
庄原市	2,853	20	2,935	19	82	14
大竹市	6,272	14	6,694	12	422	12
東広島市	24,480	4	20,993	3	△ 3,487	23
廿日市市	24,858	3	14,121	6	△ 10,737	28
安芸高田市	4,072	17	3,796	16	△ 276	17
江田島市	3,698	19	1,744	22	△ 1,954	21
府中町	16,397	6	20,082	4	3,685	3
海田町	9,483	10	10,373	9	890	9
熊野町	7,959	12	2,227	20	△ 5,732	27
坂町	3,927	18	5,842	13	1,915	5
大野町	8,441	11	4,231	15	△ 4,210	24
宮島町	253	28	678	28	425	11
安芸太田町	752	26	974	25	222	13
北広島町	1,946	23	3,224	18	1,278	8
瀬戸田町	1,028	25	1,034	24	6	15
大崎上島町	374	27	807	26	433	10
世羅町	2,373	21	1,693	23	△ 680	19
神辺町	12,142	8	7,089	11	△ 5,053	25
神石高原町	1,188	24	755	27	△ 433	18

3 昼間人口

(1) 広島県の昼間人口

～昼間人口は 2,872,032 人、夜間人口を 9,367 人上回る～

平成 17 年の広島県の昼間人口は 2,872,032 人で、平成 12 年と比べ 13,941 人 (△0.5%) 減少している。

夜間人口は 2,862,665 人で、平成 12 年と比べ△13,703 人 (△0.5%) 減少している。

昼間人口と夜間人口の差をみると、昼間人口が夜間人口を 9,367 人上回っているが、平成 12 年と比べると、238 人 (△2.5%) 縮小し、平成 17 年の昼夜間人口比率 (夜間人口 (常住人口) 100 人当たりの昼間人口) は 100.3 となり、平成 12 年と同水準となった。(統計表：第 6 表)

表 10 昼間人口、夜間人口の推移

(単位:人, %, ポイント)

区分	実数			増加数		増加率	
	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年
昼間人口	2,872,032	2,885,973	2,891,222	△ 13,941	△ 5,249	△ 0.5	△ 0.2
夜間人口	2,862,665	2,876,368	2,879,318	△ 13,703	△ 2,950	△ 0.5	△ 0.1
昼夜間差	9,367	9,605	11,904	△ 238	△ 2,299	△ 2.5	△ 19.3
昼夜間人口比率	100.3	100.3	100.4	△ 0.0	△ 0.1	-	-

※昼間人口及び夜間人口は、年齢不詳を除いているので、夜間人口(常住人口)と国勢調査確定人口(2,876,642人)とは、一致しない。

(2) 市区町別昼夜間人口比率

～広島市中区の昼間人口は夜間人口の約 2 倍～

昼夜間人口比率を市区町別にみると、最も高いのは広島市中区の 194.6 で、次いで宮島町の 122.0, 坂町の 115.2, 広島市南区 113.8, 府中町の 106.8 の順となっている。

一方、最も低いのは熊野町の 77.1 で、次いで広島市佐伯区の 80.0, 大野町の 83.7, 広島市安芸区の 84.1, 広島市安佐北区の 84.2 の順となっている。

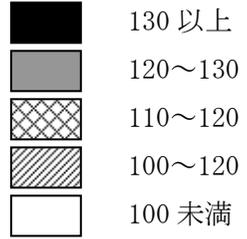
県内 35 市区町のうち、昼夜間人口比率が 100 を下回っているのは 18 市区町となっており、うち 9 市区町で 90 を下回っている。

表 1 1 市区町別昼夜間人口比率

市区町	平成17年		平成12年		平成7年	
	昼夜間人口比率	順位	昼夜間人口比率	順位	昼夜間人口比率	順位
広島県	100.3	—	100.3	—	100.4	—
広島市	102.6	—	103.3	—	103.9	—
広島市中区	194.6	1	201.3	1	205.4	1
広島市東区	85.1	29	85.1	29	84.8	28
広島市南区	113.8	4	114.7	3	112.9	4
広島市西区	103.2	9	106.0	8	107.9	6
広島市佐南区	85.0	30	84.3	30	83.7	30
広島市佐北区	84.2	31	82.4	32	81.2	31
広島市芸区	84.1	32	82.7	31	80.7	32
広島市佐伯区	80.0	34	78.8	34	76.6	34
呉市	97.9	22	97.6	19	96.9	21
竹原市	95.8	25	96.3	25	94.9	24
三原市	101.3	14	100.8	14	100.2	15
尾道市	98.1	21	97.1	22	97.0	20
因島市	99.5	18	99.2	17	100.3	14
福山市	101.8	13	102.4	10	103.1	11
府中次市	104.6	8	106.8	6	107.2	7
三原市	102.3	12	102.3	11	102.4	12
大庄市	100.2	17	100.1	15	99.1	16
大竹市	101.1	15	97.5	20	94.2	25
東広島市	98.2	20	96.6	24	95.5	23
廿日市市	87.5	27	86.1	27	84.5	29
安芸高田市	99.1	19	98.5	18	97.1	19
江田島市	93.4	26	92.5	26	90.6	26
海田町	106.8	5	106.5	7	109.7	5
熊野町	102.9	10	101.9	12	105.9	9
坂野町	77.1	35	75.0	35	73.1	35
大宮野町	115.2	3	109.4	4	115.1	2
安芸太田町	83.7	33	85.7	28	85.2	27
安芸太田町	122.0	2	120.0	2	113.7	3
北広島町	102.7	11	101.1	13	100.8	13
瀬戸田町	106.4	6	107.8	5	106.8	8
大崎上島町	100.3	16	99.5	16	98.2	17
大崎上島町	104.6	7	104.1	9	103.8	10
世羅町	96.3	23	96.6	23	97.8	18
神辺町	87.2	28	82.3	33	79.5	33
神石高原町	96.3	24	97.2	21	96.3	22

※ 同順位の場合は小数点第2位を算出して順位をつけた。

図6 市区町別昼夜間人口比率（平成17年）



《問い合わせ先》

広島県地域振興部地域振興対策局

統計調査室人口統計グループ

〒730 - 8511 広島市中区基町10 - 52

電話 (082) 513 - 2533 (ダイヤルイン)